

まちの話題

12/18 おもちで世代間交流

J Aながさき西海女性部上志佐支部（鈴立陽子支部長）

今年も各地域でもちつきやもち作りを通じた世代間交流が行われました。

この日は、同支部の6人が協力し、旧J Aながさき西海上志佐出張所にて、上志佐小学校の児童44人と交流。児童は、地元で収穫されたもち米15^{キロ}を使い、女性部員に教わりながら一人、白餅3個、あんこ餅2個に仕上げました。

会場には「あったかい」「もちもちしてる」と楽しそうな声が広がり、笑顔あふれる交流となりました。



12/26 感謝の気持ちを込めた門松を寄贈

公益社団法人 松浦市シルバー人材センター

同団体が市民の皆さんへ感謝の気持ちを表したいと市役所北側の入口に一对の門松を寄贈。

高さ1.7^{メートル}、人が笑っているように切られた竹や、松、南天、葉ばたん、椎木などで美しく飾られた門松は素材集めから装飾まで、のべ約30人の会員らが協力し、設置されました。

鬼塚誠実行委員長は「会員一同、松浦市の発展を願い、心を込めてつくりました」と挨拶し、続いて村田政司理事長から市長へ寄贈札が手渡されました。



12/11 集まった「縁」被災者支援に

松浦こいから隊（福田和歌子隊長）

同団体が能登半島地震災害義援金を市に贈呈しました。

11月23日（日）に主催した「第15回松浦YOSAKOI祭り～en～」には九州各地から19チームが参加。

各チームから受け取った参加費の一部を義援金とし、福田隊長から友田市長へ手渡されました。

義援金は市を通じて日本赤十字社へ届けられ、被災者支援に役立てられます。



12/15 木太刀を担ぎ 五穀豊穡を願う

御厨町寺ノ尾地区 八幡神社（森川典幸宮司）

同神社で、6年ぶりに木太刀の舞が奉納されました。これは、例大祭で奉納される神楽の一つで、イタビの木で作られた太刀を担ぎ、鈴を鳴らしながら舞う神楽です。太刀が大きいほど翌年は豊作になるとの言い伝えで、江戸時代から続く伝統行事として受け継がれています。

氏子の田中祐毅さんが手彫りで製作した木太刀は、長さ約1.3^{メートル}、重さ約30^{キロ}。

今山神社の松浦寛二宮司が太刀を担ぎ、地区の安全と五穀豊穡を祈願し、舞を奉納しました。





令和4年12月から地域おこし協力隊として松浦アールスメロンの栽培技術を学んでいた小吹雅斗さんが、3年間の任務修了に伴う活動報告会を市役所で行いました。

小吹さんは、愛知県尾張旭市出身。農業は未経験でしたが、松浦メロン部会 辻邦彦部会長の指導のもと、栽培技術や農業経営などを学びました。4月からは、松浦市に定住し、アールスメロン農家の新規就農者として新たなスタートを切ります。

報告会の最後には、「支えてくれた人たちの期待に応え、松浦市の農業を盛り上げ、全国の皆さんにおいしいアールスメロンを届けたい」と今後の決意を語りました。



指導された辻部会長（右）

令和8年度 奨学生等募集

問合せ

教育総務課 総務係

☎内線 348



市では、学習意欲があるにもかかわらず、経済的理由によって就学困難な人に対して、教育の機会均等と有能な人材を育成することを目的として、奨学金を無利子でお貸ししています。希望される人は問合せ先までご連絡ください。

| | 市就学一時金（大学・専修学校） | 市奨学生（高校以上） |
|------|---|--|
| 資格 | 以下の条件すべてを満たす人 ①本市に住所を有する人 ②学生が大学（短期大学含む）または専修学校に令和8年度に入学予定の人 ③経済的に困っている人 | 以下の条件すべてを満たす人 ①本市に住所を有する人およびその子 ②高等学校以上の学校に令和8年度に入学または在学中の人 ③経済的に困っている人 |
| 貸与金額 | 30万円（無利子） | 高等学校・・・15,000円/月 大学・専修学校・・・30,000円/月 |
| 申込期間 | ●第1期募集 2月2日（月）～18日（水） ●第2期募集 2月19日（木）～3月31日（火） | 3月13日（金）～4月14日（火） |
| 注意事項 | ほかの奨学金、就学一時金との重複貸与はできませんが、日本学生支援機構の給付型奨学金との併給は可能です。 | |